

会派研修報告書



報告者 草津市議会
草政会 中島 美徳

I. 会派研修の概要

1. 日時

令和4年11月15日(火)午後1時30分～午後3時30分

2. 研修場所

関西電力株式会社舞鶴発電所

3. 参加者

草政会 西田 剛、瀬川 裕海、伊吹 達郎、小野 元嗣、
永井 信雄、山元 宏和、横江 政則、中島 美徳、
遠藤 覚、川瀬 善行、井上 薫、服部 利比郎、
田中 香治

II. 研修の内容

● 「舞鶴発電所におけるCO₂排出量削減の取組」

関西電力(株)舞鶴発電所の職員より石炭火力発電の仕組みやCO₂排出量削減のための取組を説明していただいた後、施設内を見学させていただきました。さらに特許技術を活用したCO₂を吸着させる実証実験の現場も見学させていただきました。

● 主な質疑応答

質問：ベース電源である火力発電であるが、一日でどれだけの電力を発電しているのか？

答：一日中フル稼働しているのではなく、時間帯によって必要な電力量を常に見ている。昼間は太陽光発電で得られる電力が多いので火力を抑えたり、夜間は逆に火力を多くしたりと原子力、火力、風力、太陽光、水力など総合的に判断して稼働量を変えている。

質問：石炭の主な輸入先はどこですか？

答：オーストラリア。

質問：CO₂の排出量を少なくしていると聞いたが、排出ガスの何パーセントくらいがCO₂なのか？

答：石炭だけでなく木質ペレットやアンモニアなどを加えて燃焼させることで排出ガスに含まれるCO₂を削減している。さらに、現在国の補助事業によってCO₂だけを吸着させて再燃料

化する特許技術の実証実験に取り組むため関連施設の建設中である。

質問：昨今の技術開発により、少ない燃料、小さいモーターで大きな発電量を得られるようなできないのか？

答：必要な電力量を確保していくためにはどうしても大型の機会が必要である。しかし、技術開発により、発電効率を上がってきている。

そのほか、施設内を見学中にも活発な意見交換をさせていただき全員が舞鶴発電所の安全に電気を作る仕組みやゼロカーボンに向けた取組などより良く理解することができました。

(詳細は資料のとおり)

Ⅲ. 研修を終えて（所感）

今回の研修では、関西電力株式会社舞鶴発電所及び関西電力送配電株式会社のご協力により、発電時に排出されるCO₂をどのように削減しているのか、国が示している2050年CO₂排出量ゼロに向けた取組を資料による説明だけでなく、実際に発電している施設やCO₂排出量を削減している施設、さらには特許技術を活用したCO₂をさらに削減していく実証実験施設の見学もさせていただきました。

終始非常に丁寧に対応いただき、資料による説明だけでなく施設見学、道中のバスの中でも詳しく説明いただいたことで、電力の安定供給の方法や資源の有効活用、どのような場面でもCO₂排出量を削減していく取り組みなどが大変よくわかりました。

本市においても、昨年度より議会とともに気候非常事態宣言をしており、今後の草津市におけるゼロカーボンの取組に対しての大きな学びとなりました。











